

日建リース工業がトラウト陸上養殖

2021年初年度計画 駿河湾の地下水で生産

リース大手の日建リース工業（東京都千代田区、関山正勝社長）が今年から陸上養殖したトラウトサーモン「三保サーモン」の出荷を始めている。初年度となる今年は10～20トンの生産を計画。8月から2キロサイズ中心に出荷しており、年内いっぱいまでの出荷・販売を見込む。将来的には年間55トンの生産と通年での出荷体制を目指している。



同社は静岡市、東海大などとの産学官連携で事業化を目指していた。養殖場は静岡市の三保地区に構え、昨年10月から養殖を開始。駿河湾の地下水を用いて生産する。地下水にはアニサキスが存在しないため、「寄生虫の心配のない安全・安心なサーモンが生産可能（同社）という。販売先は地元の静岡を中心に一部首都圏などもあ

り組み。締め・脱血などの高度な処理技術、低コスト・小ロットで活魚を輸送できる「魚活ボックス」の利用、マーケットイン戦略の展開などを想定。各構成員の強み・特徴を生かすことで、競争力ある流通構造を確立し、持続的に発展可能な枠組みを構築することを目指す。

国のバリューチェーン改善促進事業に採択

同社は27日、生産、加工・流通、販売の各機関が連携し、同社が代表機関を務める「地下海水陸上養殖サーモンバリューチェーン改善促進協議会」が水産庁の「令和3年度バリューチェーン改善促進事業」で、バリューチェーン改善検討提案が採択されたと発表した。

生産から加工・流通、販売にいたる各段階の連携により、地域市場・首都圏などのマーケットに対して消費者ニーズに対応した商品・サービスを提供することでバリューチェーンの改善促進に取り組む。

地下水陸上養殖の「三保サーモン」

